

行政視察報告書

令和7年 12月 25日

会派名 糸魚川の未来を魅せる会
議員氏名 池田 七菜

1 視察議員名

池田 七菜

2 視察期間

令和7年 11月 12日（水曜日）から
令和7年 11月 14日（金曜日）までの 3日間

3 視察先

- 1 岩手県 紫波町
- 2 岩手県 葛巻町

4 視察目的

- 1 (1) 紫波町公民連携旧市街地日詰地区再開発事業調査
(2) 紫波町公民連携社会資本整備事業オガール見学
- 2 (1) 葛巻町再生可能エネルギー活用（大型風力発電所、他）
(2) 県立葛巻高等学校山村留学受入体制

5 視察の概要

1 (1) 紫波町公民連携旧市街地日詰地区再開発事業調査

調査先 温浴施設ひづめゆ

岩手県紫波町にある「ひづめの湯」は、町の中心市街地である日詰地区に立地するサウナを主体とした温浴施設である。2012年にオープンし、民間事業者が運営を担いながらも、町のにぎわい創出や地域活性化を目的とした官民連携の施設として整備されてきた。元町役場跡地を活用しており、公共資産の有効活用という点でも特徴的である。

施設はサウナを中心に設計されており、規格外のサウナ設備やテントサウナの導入など、従来の温浴施設にはない付加価値を創出している。一方で、コンビニエンスストアのテナント誘致や、町の土地を借り受ける形での運営など、柔軟なスキームが採用されている点も注目される。

当初は飲食店も併設されていたが採算面等の課題から断念された経緯があり、民間の経営判断と公共目的とのバランスの難しさも示されている。サウナ事業においては、担い手や専門人材の存在が不可欠であり、情熱とノウハウを持つ運営者の重要性が強調された。

本事例は、公共施設を単なる箱物に終わらせず、地域の特性や人材を活かしながら持続可能な運営を行うための示唆に富むものであり、今後の公共施設整備や官民連携事業を検討する上で、大いに参考となる視察であった。

(2) 紫波町公民連携社会資本整備事業オガール見学

調査先 オガール

岩手県紫波町における「オガールプロジェクト」は、町有地を活用し、官民連携により進められた先進的なまちづくり事業である。中心市街地に分散していた公共機能や民間施設を集約し、「稼ぐ公共」を理念に、持続可能な地域経営を目指して整備が進められてきた。



プロジェクトの中核となるのが、バレーボール専用アリーナをはじめとしたスポーツ施設である。国内外の合宿や大会の誘致を想定した施設設計がなされており、併設されたホテルと一体的に活用されることで、滞在型利用を促進している。これにより、スポーツを核とした交流人口の拡大や、地域経済への波及効果が生み出されている。

運営においては、民間主導のマーケティング手法が積極的に取り入れられており、需要を見極めた施設整備やテナント誘致が行われている点が特徴である。行政は過度に関与せず、民間の経営感覚を尊重することで、スピード感のある事業展開が可能となっている。一方で、公共性の確保や地域全体への利益還元については、官が適切に関与する役割分担がなされている。

本プロジェクトは、単なる施設整備にとどまらず、地域資源を活かした戦略的な拠点形成と、官民連携による持続可能な運営モデルを実現している点で高く評価される。人口減少や財政制約が進む自治体にとって、公共施設の在り方や地域活性化の手法を考える上で、多くの示唆を与える視察事例であった。

2 (1) 葛巻町再生可能エネルギー活用（大型風力発電所、他）

調査先 葛巻町役場、風力発電所

岩手県葛巻町では、町役場庁舎と再生可能エネルギー事業を一体的に捉えたまちづくりが進められている。令和7年11月13日に視察した新庁舎は、総事業費約40億円に加え、関連整備費約14億円を投じて建設されたもので、町の中核施設として行政機能だけでなく、住民サービスや防災拠点としての役割も担っている。

庁舎内には、子育て支援スペースや授乳室、おむつ替えスペースが整備されており、来庁者が安心して利用できる環境が確保されている。また、相談室や個室を充実させることで、プライバシーに配慮した対応が可能となっている点も特徴である。建物全体は回遊性のある動線設計となっており、庁舎内を一周できる構造とすることで、来庁者の利便性と職員の働きやすさの両立が図られている。

防災面では、災害時に庁舎内で即座に対応が完結できる体制が整えられており、地域センターとしての機能も備えている。地下空間や自然採光の工夫により、明るく開放的な庁舎空間を実現している点も印象的であった。

一方、葛巻町では第三セクターを活用した事業展開と、クリーンエネルギー導入を組み合わせた地域づくりが進められている。

葛巻町の第三セクターには、くずまき高原牧場、くずまきワイン、グリーンテージくずまきなどがあり、地域資源を活かした事業展開が行われている。本視察では、くずまきワイン直売店「森の館ウッディ」を訪問するとともに、宿泊施設であるグリーンテージくずまきに宿泊し、実際の運営やサービスの状況を確認した。

クリーンエネルギー分野では、主に民間事業者による風力発電事業が町内で展開されており、実際に風力発電所を現地で見学した。大規模な発電設備が山間部に立地し、再生可能エネルギーの導入が地域に根付いている状況を確認した。

葛巻町の取り組みは、第三セクターや民間活力を活用しながら、環境施策と持続可能な財政運営を両立させる事例として整理でき、今後の地方自治体運営を考える上で参考となるものである。また、葛巻町は旧能生町の姉妹都市であり、昨年度の糸魚川市制施行20周年記念式典および今年度の葛巻町制施行60周年記念式典において、相互に訪問するなど交流を重ねてきた。これまで築いてきた友好関係を大切にしながら、今後も継続的な交流を通じて、両市町のさらなる発展につながる関係性を深めていきたい。

(2) 県立葛巻高等学校山村留学受入体制

調査先 県立葛巻高等学校

岩手県葛巻町では、地域の高校存続と人材育成を目的として、葛巻高校において「山村留学」の取り組みを行っている。本事業は、人口減少により生徒数の確保が課題となる中、全国から意欲ある生徒を受け入れ、地域と関わりながら学ぶ環境を整えることで、高校の魅力向上と地域活性化の双方を目指すものである。

葛巻高校は小規模校であり、少人数ならではのきめ細かな指導が可能となっている。教員が生徒一人ひとりの状況を把握しやすく、不登校経験のある生徒にとっても安心して学べる環境が整っている点が特徴である。町内中学校からの進学率は約5割にとどまるものの、「葛巻高校で学びたい」という明確な目的意識を持った留學生の存在が、学校全体の活力につながっている。

山村留学では、地域と強く関わるハウスマスターのもとで生活し、日常的な交流を通じて地域社会の一員としての意識を育んでいる。通学や生活に関する支援も町が主体となって行っており、経済的・心理的な負担軽減が図られている。こうした支援体制により、生徒は学業だけでなく、社会性や自立心を身につけることができている。

本取り組みは、単に生徒数を確保するための施策ではなく、地域資源を活かしながら高校の価値を高め、「葛巻高校を守る」という明確な目的のもとで実施されている点に意義がある。地方における高校教育の持続可能性や、教育を軸とした地域づくりを考える上で、多くの示唆を得られる視察であった。

